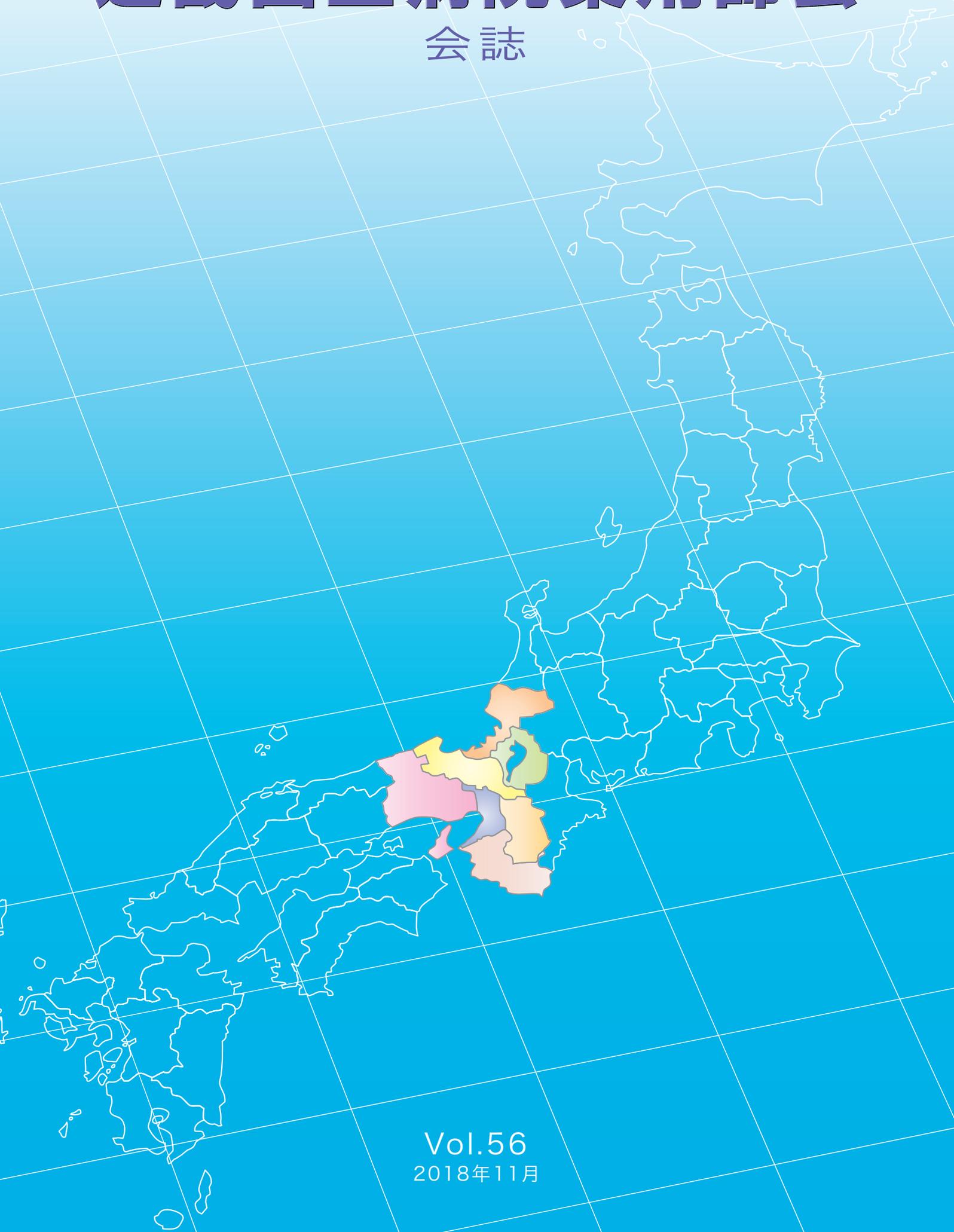


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.56
2018年11月

目 次

提言～未来の薬剤師のみなさまへメッセージ～.....	2
兵庫あおの病院	岸本 歩
薬剤部紹介.....	3
やまと精神医療センター	續木 康夫
平成 30 年度近畿国立病院薬剤師会チーム医療シンポジウム報告.....	5
神戸医療センター	木原 理絵
平成 30 年度近畿国立病院薬剤師会学術講演会 報告.....	7
南和歌山医療センター	佐方 俊介
平成 30 年度近畿国立病院薬剤師会チーム医療シンポジウムに参加して.....	8
和歌山病院	東 崇皓
『第 72 回国立病院総合医学会』に参加して.....	9
神戸医療センター	松井 尚美
趣味のページ ～ミュージカル～.....	10
宇多野病院	山階 規子
地区会報告.....	11
編集後記.....	14

提言～未来の薬剤師のみなさまへメッセージ～

兵庫あおの病院 岸本 歩

2020年には2回目の東京オリンピックが開催されます。2018年の今年4月に兵庫あおの病院薬剤科長として赴任しました私は、1回目の東京オリンピックの年に生まれました。薬剤師になり病院勤務を続けてちょうど30年の節目に、このような機会をいただきましたので過去と現在をふりかえり未来（30年後）に思いをめぐらせてみました。

厚生労働省は今年、2016年「医師・歯科医師・薬剤師調査」の結果を発表しました。16年末時点の薬剤師の届け出は30万1323人で、1982年の調査開始以来、初めて30万人を超えたそうです。薬剤師が主に従事している業務の種別を見ると、「薬局」が17万2142人で全体の57.1%を占め、私達病院薬剤師は52,145人で全体の17.3%に比べると格差が大きくなってきています。

(下表参照：単位は1,000以下切捨表示 過去衛生年報等参照)

参考年表	生まれた年	薬剤師になった年	薬剤科長になった年
和暦（西暦）	昭和39年(1964年)	昭和63年(1988年)	平成30年(2018年)
五輪	1回目	日本以外アジア初	もうすぐ！
	東京オリンピック	ソウルオリンピック	2回目東京オリンピック
通信 	ケータイ 固定電話	携帯電話 開始	電子メール タブレット PHS
病院薬剤師	3大病院に初DI室	100点業務開始	病棟常駐業務定着
薬剤師人数	6万6千人	14万3千人	30万1千人
薬局勤務	2万3千人	4万5千人	17万2千人
病院勤務	1万1千人	3万8千人	5万2千人
人件費：医師	7万8千円	87万5千円	93万1千円
薬剤師（男）	4万7千円	35万9千円	40万5千円
薬剤師（女）	3万1千円	29万2千円	35万6千円

私が生まれた頃の薬剤師を取り巻く環境は、町の化学者から変貌の時を迎えていました。処方箋が回って来ない町の薬局は、家庭薬や農薬を調合販売、健康相談・農薬の相談を主に行っていたそうです。そして私が薬剤師になった頃、医薬品は薬局の調剤室で作るのではなく、化学薬品として工場製造に移行、薬剤師職能空洞化の時代と呼ばれていました。ここに医薬分業が進む鍵（実際は、薬価差益が少なくなったことで拍車がかかったのですが）があり、私たちは、物（医薬品）を見る専門家から医薬品を使用するあるいは使用した人を見る専門家の一員（医療の担い手）となっていくのです。私は、その頃の入院調剤技術基本料としての患者個人に対する服薬指導業務をがんばったので、今現在の入院基本料としての医師等に対して実施する病棟業務が認められるようになったと考え、今の薬剤師の先生方にこれから増える在宅医療との連携に！未来の薬剤師像を創造していただきたいと思っています。

薬剤科紹介



独立行政法人国立病院機構

やまと精神医療センター

Yamato Mental-Medical Center (YMMC)

【病院概要】

当センターは近畿地方で唯一の精神科医療専門病院です。奈良市から南西方向にあたる大和郡山市の丘陵地帯に位置しており、付近には松尾寺・慈光院や「斑鳩の里」に法隆寺・中宮寺等の名所旧跡が多く存在しています。敷地内には史跡「笹尾古墳」があり、周囲を木々に囲まれ、環境は極めて閑静であり、精神疾患患者の治療・療養に好適な条件を具備しています。当センターは昭和42年4月に結核療養所から精神科医療に機能転換し、平成23年4月松籟荘病院からやまと精神医療センターに改称しました。



診療機能として、精神科救急・応急入院指定病院、認知症疾患、結核合併精神疾患、動く重症心身障害（入院及び適所）、精神科リハビリテーション医療、医療観察法に基づく医療等に特色ある医療を行っています。また、一般精神疾患においては、統合失調症、双極性障害、神経症、認知症、心身症、発達障害等幅広い診察を行っています。

『医療法許可病床数』 283床

- 1-1病棟（精神閉鎖病棟）44床、1-2病棟（精神療養病棟）54床、
- 2病棟（結核等身体合併症病棟）50床、
- 3病棟、4病棟（重症心身障害児（者）病棟）各50床、
- 5病棟（医療観察法病棟）35床

【薬剤科概要】

薬剤科は、薬剤科長、調剤主任、薬剤師の3名の構成であります。

1. 調剤業務

精神科医療は精神療法も有益ですが、ほぼ患者全員が薬物療法に携わります。医療安全に徹した調剤が必然で、コンプライアンスを考慮して、外来も含めて大半の処方が一包化調剤となります。処方監査では前回処方と比較して投与量の増量、減量または継続を確認しています。

2. 薬剤管理指導

医師の指示が発出すれば、退院までの間、薬剤管理指導を実施します。抗精神病薬や気分安定薬はハイリスク薬になり体重増加、錐体外路症状の出現頻度、プロラクチン値の変化、QTc間隔延長、鎮静などの副作用を確認します。服薬アドヒアランスを高く維持することが再発率の低下のために重要になります。入院時には持参薬鑑別を実施しています。

3. チーム医療

ICT、NSTチームに薬剤師が関与しています。抗精神病薬は血糖値上昇傾向になることが多く、NSTチームの多職種関与が有益であります。

4. 薬薬連携

近隣の薬剤師会とは精神科医療に対しての連携ニーズがあることが分かり、薬薬連携研修会を開始しました。当院患者に対して訪問薬剤管理指導の需要があり、保険薬局と連携を密にして地域包括ケアの推進のため、在宅患者訪問薬剤管理指導を実施できる体制を構築中であります。



(文責：續木 康夫)

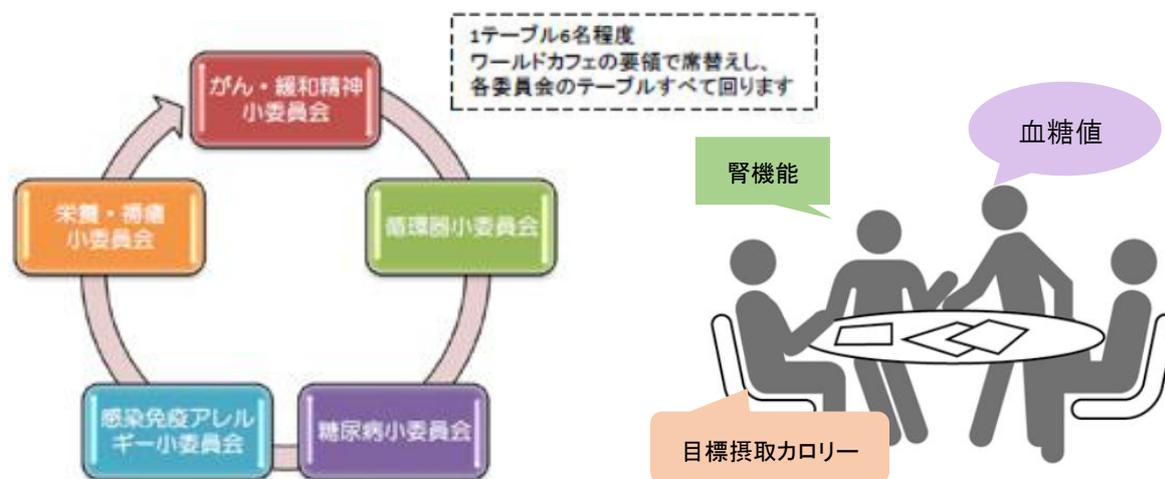
平成 30 年度 近畿国立病院薬剤師会チーム医療委員会シンポジウム報告

神戸医療センター 木原 理絵

- 日時 : 平成 30 年 10 月 27 日 (土) 13 時 30 分～15 時 30 分
担当 : 近畿国立病院薬剤師会 チーム医療委員会
場所 : ウェスティン都ホテル京都
目的 : チーム医療の実践に関する知識の修得と討議を実施することで会員相互間の情報共有と臨床薬剤師の資質向上を図る。
参加人数 : 115 名

近畿国立病院薬剤師会チーム医療委員会担当の委員会シンポジウムが開催されたので報告する。今回は、事例検討をとおして、チーム医療委員会小委員会に設定されている、がん・緩和、循環器、感染、糖尿病、栄養・褥瘡の 5 領域の各視点から、治療・副作用マネジメント、チーム医療での薬剤師の関わり等についてワールドカフェ型ディスカッションを行った。事前に事例検討に使用する症例と各領域のアセスメントポイントを参加者へ提示し、シンポジウムでは参加者全員がすべての領域を回れるよう、20 分×5 ラウンドでディスカッションを行った。

【ワールドカフェ型ディスカッション】



テーブルには、各領域の小委員長が予め準備した症例検討のヒントや解説が配置されており、スムーズに意見交換が行えるよう工夫した。

初めに委員長から進行の説明を行い、副委員長がタイムキーパー進行を担った。参加者は、自身のカードに従った領域へ移動後は自由座席制となっていた。ファシリテーター(小委員長、副小委員長)のサポートもあり、積極的に質問し、意見交換を行う参加者の様子が伺えた。最後に、委員長より症例の全体講評と各小委員長が解説を行い、参加者が今回のシンポジウムで得られた情報や知識、感想の共有に努めた。

今回のシンポジウムをとおして、がん・緩和領域では「腰椎転移に対する疼痛緩和、オキサリプラチンによる末梢神経障害」、感染領域では「抗菌薬の de-escalation」、循環器領域では

「腎機能に対する処方薬の妥当性評価」など、幅広い内容について検討を行い、参加者からは「臨床に則した具体的な薬物介入方法について知ることができた」とコメントがあった。



終了後に行ったアンケート調査について、集計結果を一部報告する。
アンケートは100名より回答を得た(回収率87%)。「ワールドカフェはSGDと比べ良かったか」については、「良かった」及び「やや良かった」を合わせ91%であった。「テーブル(島)ごとに領域を設けることで役立つ情報を広く得ることができたか」については、「できた」及び「ややできた」を合わせ100%であった。「今回のワールドカフェで良かったこと(自由記載)」については、「他施設の多くの先生と知識の共有ができた」、「意見を言いやすかった、話しやすかった」、「自分の分からないこと(得手不得手)が認識できた」という意見が多かった。アンケート集計結果より、参加充実度の高さが伺え、多くの参加者がチーム医療における薬物療法の介入についての知識を深めることが出来たと感じた。

本シンポジウムの開催にあたり、企画・運営等でご指導・ご協力頂いた先生方、このような機会を与えて下さった会員の先生方に深く御礼申し上げます。

基調講演

演題：当院での糖尿病治療薬の使用状況と糖尿病チームでの薬剤師の関わり

講師：国立循環器病研究センター 薬剤部 森 祐美子 先生

現在、国立循環器病研究センターにおいて、最も使用される糖尿病治療薬は DPP-4 阻害薬であり、その他の糖尿病治療薬に関しても、全国における使用状況割合と大きな差はなかった。

院内における糖尿病治療薬に関する調査においては、次の二点が示された。(1)SGLT2 阻害薬は脱水や脳梗塞を起こしやすいと報告があるが、SGLT2 阻害薬使用患者を対象に調査を行ったところ脱水や脳梗塞の症状はみられなかった。(2)メトホルミンは心不全患者に禁忌とされるが、メトホルミン内服中の心不全患者を対象に調査を行ったところ乳酸アシドーシス症状等をきたすことはなかった。

糖尿病チームでの薬剤師の関わりにおいては、糖尿病教育入院や糖尿病教室では薬物療法等に関して患者への指導を実施している。また糖尿病連携手帳を用いて、入院中は他職種、退院後はかかりつけ医と、様々な職種と連携して情報を共有し、患者を支援する体制をとっている。

特別講演

演題：これからの糖尿病治療戦略について

講師：独立行政法人国立病院機構 京都医療センター

内分泌代謝高血圧研究部 研究室長 日下部 徹 先生

我が国の糖尿病患者数は生活環境と社会環境の変化に伴い、年々増加傾向にある。同時に、高齢化が進む近年、高齢糖尿病患者における様々な問題が現れている。その中で、今回は高齢糖尿病患者における血糖コントロール目標、サルコペニア等の疾患との関連性についてご教示いただいた。

現在日本では、熊本宣言で発表された「HbA1c 7.0 未満」という基準が糖尿病合併症予防のための目標値として広く用いられる。しかし、高齢患者では厳格な血糖コントロールにより低血糖症状を起こすことが珍しくなく、低血糖症状発現が認知機能や ADL 低下につながると指摘されている。したがって、高齢患者においては低血糖リスクと高血糖による合併症の両者を天秤にかけて判断し、「HbA1c 8.0 程度」が目標値として推奨される。

サルコペニアとは、加齢による筋肉量減少、筋力低下などにより、身体機能に影響が出る状態と定義され、サルコペニアで生じる ADL 低下により糖尿病が悪化する悪循環が問題となる。治療に関して、まずは患者自身の意識改革が重要となる。現時点でサルコペニアに対する薬物療法は確立されていないが、ビスホスホネート系薬剤を中心とした骨粗鬆症治療薬が有効であるという報告もあり、今後の動向が注目される。

平成 30 年度近畿国立病院薬剤師会チーム医療シンポジウムに参加して

和歌山病院 東 崇皓

平成 30 年 10 月 27 日(土)にウェスティン都ホテル京都にて開催されました、近畿国立病院薬剤師会チーム医療シンポジウム 2018 に参加したので報告させていただきます。

本シンポジウムでは一つの事例を通して「糖尿病」、「循環器」、「がん・緩和」、「感染」、「栄養・褥瘡」の領域の視点から、各チーム医療委員会・小委員会がアセスメントポイントを設定し、ワールドカフェ方式でディスカッションを行った。参加者全員が各領域のテーブルを周り 20 分×5 ラウンドを行った。テーブルには各領域のアセスメントポイントの他に、治療ガイドラインや輸液組成表などディスカッションのきっかけになる情報も配置されていた。また、カフェ方式となっており、カフェ店員に扮したファシリテーターによるディスカッションのサポートもあり、和やかな雰囲気意見交換が行われた。

各チーム医療委員会で設定されたアセスメントポイントは次のとおりであった。

- 「糖尿病」からの視点では身体所見、検査所見、治療歴などから、持効型インスリン製剤の増量理由や、糖尿病薬以外での追加必要薬剤、生活上の問題点。
- 「循環器」からの視点では薬物投与設計に使用する腎機能推算値を求める計算式、また、推算した腎機能に対する処方処方の妥当性の検討。
- 「がん・緩和」の視点では腰椎転移による疼痛に対する薬物療法、末梢神経障害の増悪前後に対する介入案の検討。
- 「感染」の視点では抗菌薬の de-escalation、初期選択抗菌薬の妥当性の検討。
- 「栄養・褥瘡」の視点では検査所見、生活歴を基に現在の栄養状態の把握、褥瘡リスクの予測
各テーブルでディスカッションを行い、終了後にチーム医療小委員会委員長、ファシリテーターより講評をいただいた。

自施設には消化器内科の診療科等はないが、日常業務では経験する機会の少ない症例についてのディスカッションを通して、自施設では得られない知識、疾患領域の視点からの考え方等について学ぶことができた。今後の業務に活かしていきたい。

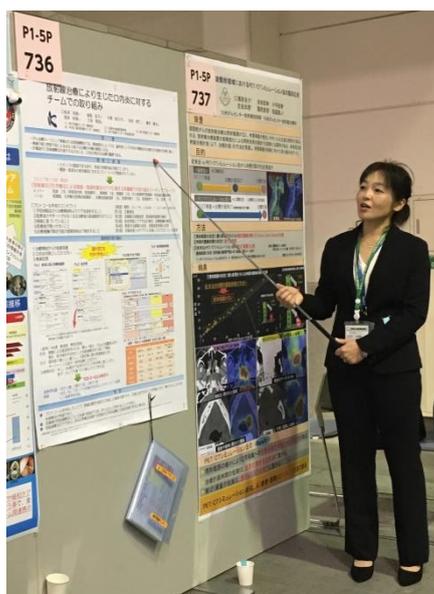
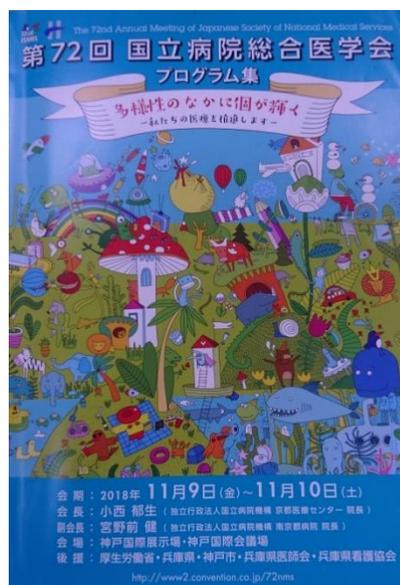
『第72回国立病院総合医学会』に参加して

神戸医療センター 松井 尚美

平成30年11月9日、10日、第72回国立病院総合医学会が神戸国際展示場・国際会議場にて開催されました。両日とも、秋晴れの澄切った空の青と色づく紅葉の赤とがとても眩しく、平成最後の開催を私たち近畿グループが担当させていただくというのも、何か感慨深いものがありました。

今学会のメインテーマは「多様性のなかに個が輝く - 私たちの医療を推進します -」を掲げていました。「多様性」。漢字で書くと一言にまとまっていますが、とても奥深い言葉です。自分の中でどう捉えるか、モヤモヤしながら、会場のポスターに目を向け、各講演やシンポジウムに耳を傾けてみると、数多くの施設で「チーム医療」「多職種での取り組み」

といった発表をされているのに気づきました。そういう私自身も今回、チームとして取り組んだ内容をポスター発表させて頂きました。人前での発表はかなり緊張しますし、準備にも頭を悩ませます。しかし、自分達の成果を発表することで、修正点や次への新しいヒントを掴むきっかけとなる事も発見できました。それぞれの職種がその特性を生かし、患者さん一人一人に、丁寧に真剣に向き合う、個はそれ自身輝けることはとても素晴らしい事です。そしてその個が集まれば輝きは更に何倍にもなるということも、肌で感じるこ



ができました。

また会場では、京都ならではの抹茶やお菓子のおもてなし、お酒好きにはたまらない銘酒、関西らしい味グルメ、疲れを癒すマッサージなど心温まるイベントにも触れ、とても充実した2日間を過ごすことができました。

私も輝けるように、明日からの業務を頑張っていこうと思います。

趣味のページ ～ミュージカル～

宇多野病院 山階 規子

兵庫中央病院の石裏先生からバトンを引き継ぎました、宇多野病院の山階と申します。趣味のページということで学生時代はバドミントンやトランペット、スキューバダイビングなど様々なことを行ってきましたが、働き始めてからのもっぱらの趣味は料理と美味しいお店を探すこと、またミュージカル、コンサートに行くことです。

今回はミュージカルのお話をさせていただきたいと思います。まず初めにですが、この趣味の問題点はお金がかかること、またチケットの争奪戦に参加しないといけないということです。そのため趣味と言いながら、あまり行けていないのが現状です。行った中で特に思い出に残っているのは、トロカデロ・デ・モンテカルロバレエ団による白鳥の湖、久石譲のジブリのコンサート、雨に唄えば（劇場に12tの雨が降ります!）、ララランドのコンサートです。

ミュージカルは基本英語なので、字幕を見、ストーリーを追い、俳優さんの顔を双眼鏡で覗き、全体を見る必要があり、とても忙しいです。俳優さんたちの全身を使った表現力、双眼鏡から見える生き生きとした表情に魅了され、胸がドキドキして楽しいような切ないような未体験の心地になります。俳優さんたちの個性豊かな表現力が羨ましくもなり、完全に虜にされてしまいます。また舞台上のオーケストラ集団による生演奏を聴きながらの観劇なので本当に至福の時間です。

ミュージカルやコンサートは非日常であり、終わるころには目頭が熱くなり高揚感に包まれます。日常の自分を振り返りストレスや嫌なことすべてを洗い流して幸せにしてくれます。“また明日からも新しい私で頑張ろう”って思えます。次は劇団四季のアラジンを見に行きたいと考えています。



参照：LION presents SINGIN' IN THE RAIN

ご拝読ありがとうございました。次回の趣味のページは国立循環器病研究センターの高野舞先生にお願いしております。よろしくお願いいたします。

地区会報告

<京都北部・福井地区> (地区理事：朝日 信一)

日時：平成30年10月19日(金) 19:00~21:00

場所：敦賀市

参加人数：舞鶴医療(10名)、敦賀医療(6名)、あわら病院(3名)

出席率：70.4% (出席者数：19名/会員数：27名)

議題：

1. 新会員紹介、人事異動について
2. 新地区理事の選出
新地区理事
朝日 信一(あわら病院 調剤主任)
3. 最近の話題について
4. 理事会報告
5. 懇親会

<京都南部・滋賀地区> (地区理事：喜田 孝史)

日時：平成30年11月30日(金) 19:30~21:30

場所：京都市

参加人数：京都医療センター(22名)、南京都病院(6名)、紫香楽病院(3名)、
東近江総合医療センター(9名)、宇多野病院(10名)

出席率：60.0% (出席者数：50名/会員数：85名)

議題：

1. 親睦会(新会員紹介 京都1名)
2. 理事会報告

<兵庫南部地区> (地区理事：木原 理絵)

日時：平成30年10月26日(金) 19:30~21:30

場所：明石駅周辺

参加人数：姫路医療(17名)、神戸医療(14名)、兵庫あおの(2名)

出席率：75% (出席者数：33名/会員数：44名)

議題：

1. 各施設の取り組み
2. 学会関連
兵庫あおの病院 1学会 1演題発表
姫路医療センター 3学会 3演題発表
神戸医療センター 2学会 9演題発表

<大阪北部・兵庫東部地区> (地区理事：森田 知子)

日時：平成 30 年 11 月 29 日 (木) 19:30~21:30

場所：Chandelier Table グランドカフェ&レストラン シャンデリア テーブル

参加人数：国立循環器病研究センター (27 名)、刀根山病院 (9 名)、兵庫中央病院 (9 名)

出席率：63.4% (出席者数：45 名/会員数：71 名)

議題：

1. 各施設の現状について

2. 新会員紹介

国立循環器病研究センター (2 名)、刀根山病院 (1 名)、兵庫中央病院 (1 名)

3. 意見交換会

<奈良地区> (地区理事：中澤 誉)

日時：平成 30 年 11 月 22 日 (木) 19:00~21:00

場所：奈良市

参加人数：奈良医療 (6 名)、やまと精神 (3 名)

出席率：90% (出席者数：9 名/会員数：10 名)

議題：

1. 人事異動について

新たに奈良医療センターに吉水浩史先生が配属となった。

2. 近況報告

奈良医療センター 海家先生、やまと精神医療センター 大住先生が国立病院総合医学会において発表を行った。奈良医療センターの KLEC 認定研修の報告を行った。

<大阪南部地区> (地区理事：小林 正志)

日時：平成 30 年 11 月 16 日 (金) 19:00~21:00

場所：難波

参加人数：大阪南医療センター (21 名)、大阪医療センター (15 名)、

近畿中央胸部疾患センター (12 名)

出席率：53.3% (出席者数：48 名/会員数：90 名)

議題：

1. 理事会連絡

2. 各施設の現状報告

3. 新会員紹介

大阪南医療センター 1 名

大阪医療センター 1 名

<和歌山地区> (副地区理事：菊池 貴大)

日時：平成 30 年 11 月 20 日(火) 19：00～21：00

場所：和歌山県 田辺市 炭火バル 火豚鳥

参加人数：南和歌山医療センター (16 名)、和歌山病院 (6 名)

出席率：84% (出席者数：22 名/会員数：26 名)

議題：

【南和歌山医療センター 近況報告】

1. 各施設の取り組み、近況
2. 学会関連

*総合医学会 2 演題ポスター発表

【和歌山病院 近況報告】

1. 各施設の取り組み、近況
2. 学会関連

・第 72 回 国立病院機構総合医学会発表

